

水墨画（扇子に描く）

市川東高校 美術 大内 隆

1、ねらい

水墨画は、鉛筆デッサンのように何度も描いては消しのくり返しで形を描いていくのとは異なり、一発で決めなくてはならない。緊張感をもった集中力を身につけるのによい題材である。筆による線描は西洋画にはない独特の線の強弱の表現ができることを理解し、墨の濃淡の美しさを体験することで日本美術に興味、関心を持たせる。

2、用具・材料

共用 小筆 面相筆 彩色筆 墨汁 硯型墨池（プラスチック製） 小皿3枚～4枚 文鎮
下敷き（毛氈） 筆洗 顔彩

※ 筆は墨絵専用の筆もあるが、書道用の一号花枝（中国製）を使用。小筆だが、穂先で線、腹で面を描くのに適している。

篆刻の時間を設けないため、面相筆は主に落款に使用する。朱の色が入ることで画面がしまり、広がりが出る。正方形に名前の一文字を書く。

個人 練習用半紙 100円～130円（箱で購入したものから配布） 扇子 500円

※ 書道用半紙はにじみやすいが、安価で枚数を制限することなく使える。

扇子は描きにくい完成品を使っていたが、和紙に描いてから竹骨に貼る教材もある。

3、展開 12時間

①参考作品を鑑賞 墨による様々な表現を鑑賞 1時間

松林屏風 秋冬山水図 鳥獣戯画 生徒作品

②基礎運筆 ア、線、没骨描法（濃淡、にじみ、かすれ）2時間

イ、竹を描く（先隈の技法）2時間 ウ、花を描く（顔彩による着色）2時間

エ、鳥を描く（細かい描写）2時間

③扇子に描く 練習した技術から各自描きたいものを選択し、扇子に描く。4時間

④鑑賞 ワークシート 1時間

4、指導上の留意点

実際にもものを見て墨で描くには相当なデッサン力が必要である。基礎運筆では、こちらが用意した花、竹、鳥を描いた印刷物を生徒に配布する。手本を見て描く書道に近いものがあるが、筆と墨になれるため墨の濃さや描く順序を示す。墨の濃淡は墨池に濃墨、小皿に中墨、淡墨を3段階つくり、濃淡の効果を理解させる。

扇子には、各自描きたいものを選択させる。花や野菜等こちらでモチーフを用意する。または、生徒各自に用意させるが、動物等の写真も可とする。扇子に描く前に、失敗しないように半紙に何度か試し描く。書道用半紙と扇子の和紙とはにじみ方が異なるので筆に含ませる墨の量を注意する。余白の効果を考え、構図を工夫させる。

完成した作品は、伝統的な水墨画の技術を使ったものから墨の濃淡による水彩画のようなものまで幅広い表現が見られるが、塗る道具としてとらえていた筆が線を描く道具でもあることを理解してくれる題材になればと思う。